

## 消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】



1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	救助活動(土砂災害)現場における二次災害事案
3. 体験した事例の中心的要素	土石流の流れが、何らかの理由で途中から直角方向に流れを変えたことにより発生したものである。
4. 体験した事例の原因・理由	最初の土石流により流出した土砂や流木等によるもの。

【体験した事例の直接的な原因について】



1. 体験した事例の直接的な原因	
------------------	--

【体験した事例について】



1. 発生日時	平成26年8月20日 午前5時頃
2. 発生した当時の天候	雨
3. 発生した活動現場	屋外：山裾の路上
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	死亡
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	その他：土石流に巻き込まれたもの
7. 事例体験時の活動	救助現場活動初期
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	その他：避難誘導及び救助活動中
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



○当事者A	年齢[53]歳、勤続年数[35]年、現場経験年数[29]年、階級[司令補] 同様の活動[数年に1度程度]、任務[その他:副隊長]
○当事者B	年齢[ ]歳、勤続年数[ ]年、現場経験年数[ ]年、階級[ ] 同様の活動[ ]、任務[ ]
○当事者C	年齢[ ]歳、勤続年数[ ]年、現場経験年数[ ]年、階級[ ] 同様の活動[ ]、任務[ ]
○その他(当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生時の経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	指令係	119番による災害の覚知	
経過2	指令係	自然災害救助第1出動指令	
経過3	A含め4名	現場まで車両で進行できないため、付近のメイン道路上に車両部署	車両部署
経過4	A含め3名	現場付近到着、指令場所の手前	
経過5	A含め3名	土砂や倒木の上を避難中の住民を発見	
経過6	A含め3名	地響きを感じる	
経過7	A	新たな土石流に巻き込まれる	抱き抱え救助中の男児も死亡、隊員2名は無事
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】



- 事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思えるか？
- ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

その他 : 土石流の発生と救助活動のタイミングが重なった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	はい
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

避難中の住民が多数おり、二次災害発生の危険を回避するため、直ちに救助活動を開始しなければならなかったことから、結果的に「避けることができない事故」と言わざるを得ない。
---

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

土砂災害に対する職員研修の実施  
①専門研修の実施  
②関係資料の配布と所属研修

○装備・資機材の対策について

情報伝達資器材の増強  
①署用無線機の増強  
②タブレット端末の導入  
③高輝度ヘッドライトの購入

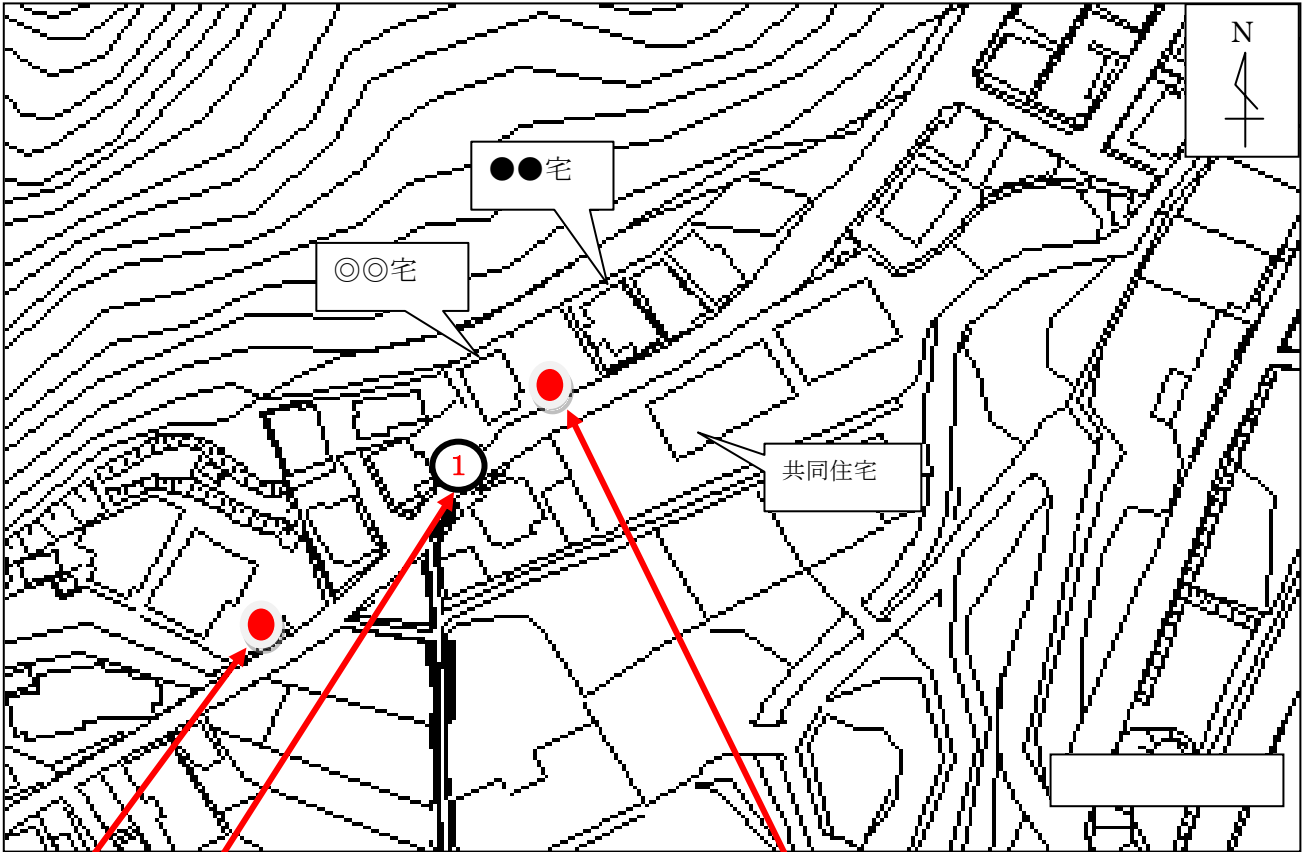
○活動環境の対策について

「水防時における警防活動要領」の見直しと、これに基づく訓練の実施

○指揮・情報伝達の対策について

「水防時における警防活動要領」の見直しと、これに基づく訓練の実施

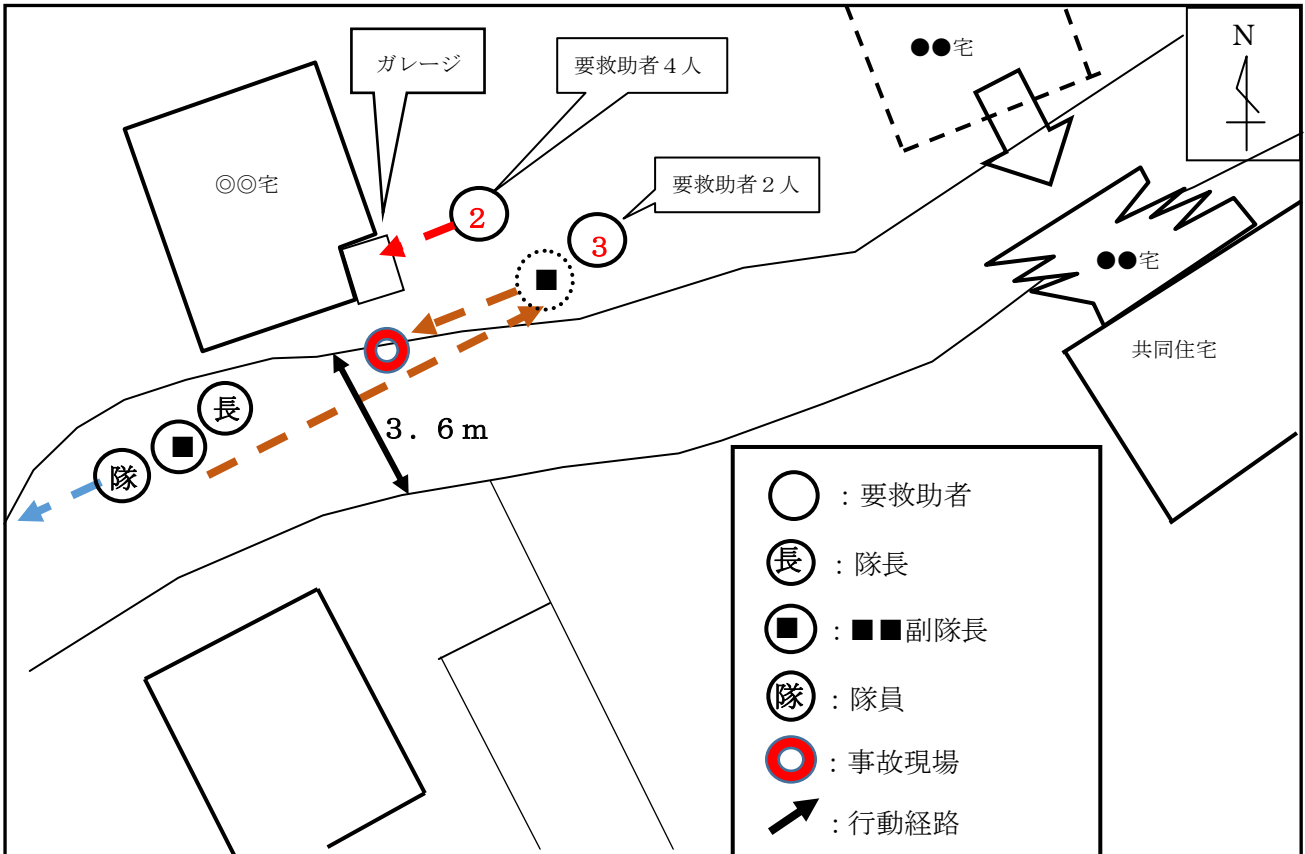
# 災害状況図



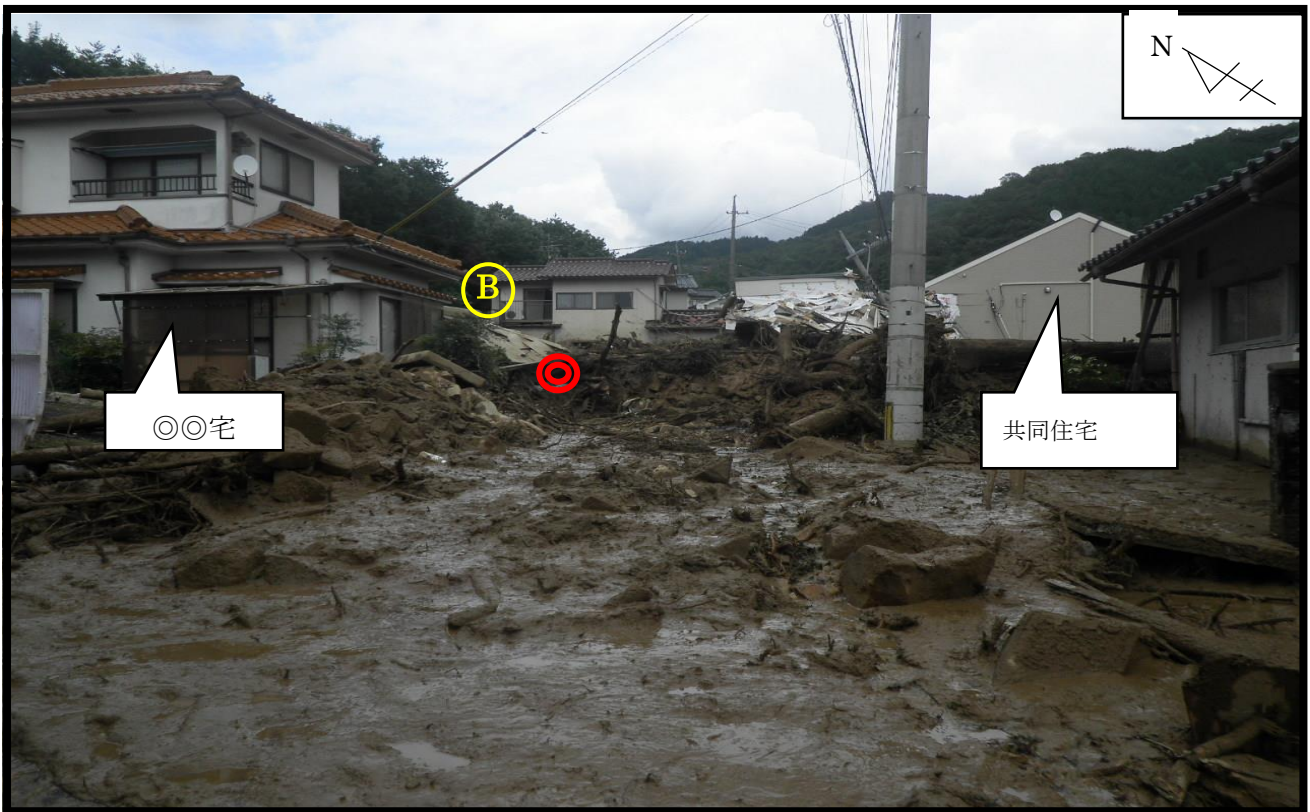
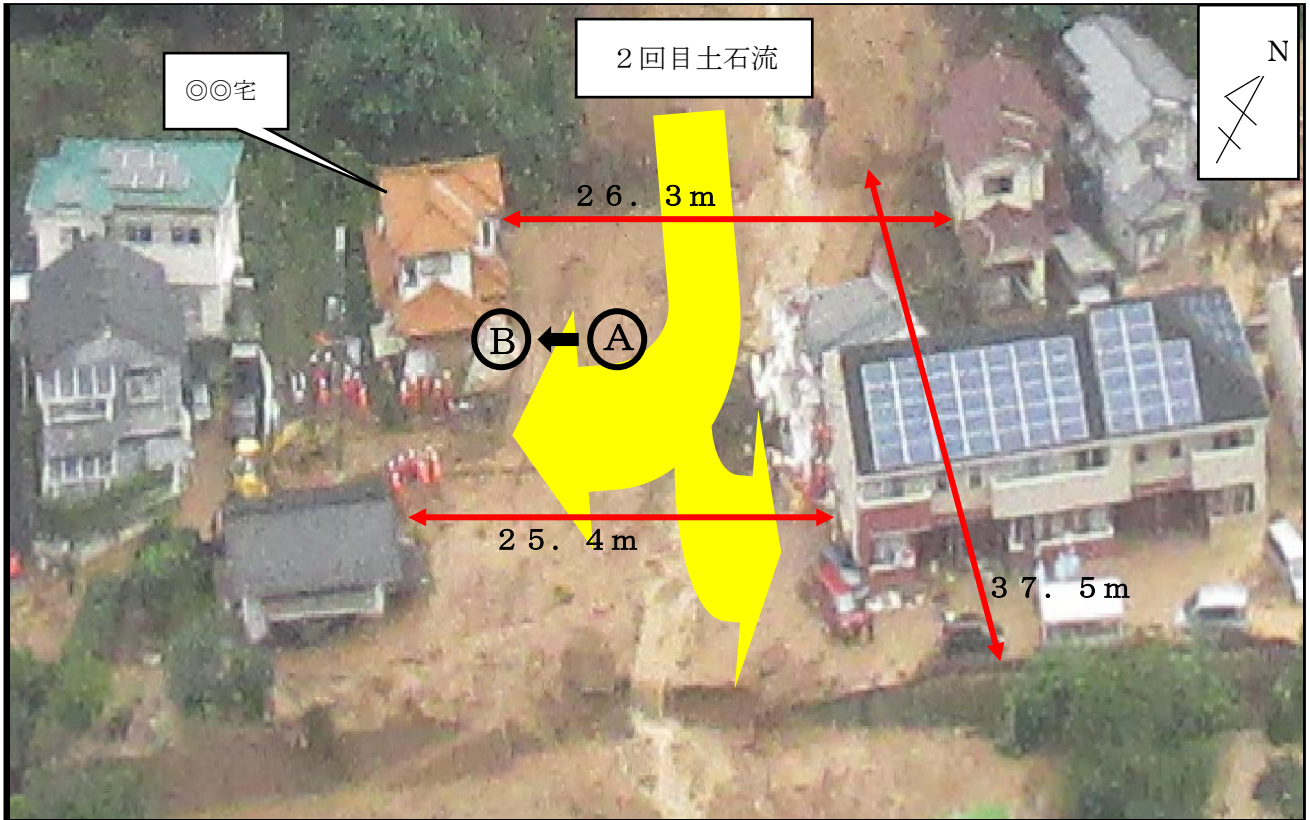
隊長が6人の要救助者を確認した位置





6人の要救助者がいた場所

隊員が避難した場所



- : 要救助者
- ⊙ (長) : 隊長
- ⊙ (副隊長) : 副隊長
- ⊙ (隊) : 隊員
- ⊙ (中心) : 事故現場
- ➔ : 行動経路



- 凡例
-  : ■■副隊長救出場所
  -  : 消防隊到着時住民が立っていた場所
  -  : 避難の呼び掛けにより住民が避難した場所
  -  : 住民の避難経路